

# 静岡英和学院大学と短期大学部におけるMoodleシステムの 教育的利用について（その1．導入の覚書き）

## On the Educational Use of the Moodle System at Shizuoka Eiwa Gakuin University and the Junior College Department (Part.1)

コミュニティ福祉学科 中原陽三

### 1. はじめに

静岡英和学院大学のMoodleシステム（SHIZUOKA-EIWA Moodle[1]）は、2017年4月12日にテスト運用を開始した。

ここではそこに至る経緯について、状況を簡単に覚書的に振り返る。

今後、それを踏まえてその後の運用についても振り返り、今後の本学における運用の展開について検討する予定である。

### 2. 本学における情報基盤（情報教育システムを含む）の管理運用体制概略

<2001年4月から2010年9月頃まで：作業を実行する組織と実行する十分な部隊の不在>

(ア) 1966年、静岡英和女学院短期大学が発足した。同じ場所に、静岡英和学院大学（四年制）が2002年に開学し、静岡英和女学院短期大学は静岡英和学院大学短期大学部と名称変更した。筆者は、四年制大学開学前に①開学後は大学教員となるとともに、情報教育システムと情報基盤全体の管理運用の責任者となること、②開学予定の大学における情報教育のカリキュラムの準備・策定、ならびに、大学開学へ向けて情報教育システムと情報基盤の刷新・構築を行うこと、③開学一年前に静岡英和女学院短期大学に入り、短大の情報教育のテコ入れをすることなどを求められて、2001年に情報系専任教員として静岡英和女学院短期大学の教員となった。それまで情報教育専任教員は不在だった。

着任当時には、すでに同短大4学科（国際教養、国文、英文、食物）の情報システム委員会があり、その委員長に迎えられた。大学が開学し、短大が名称変更したあとは、大学2学科と短大部2学科の委員会となった。それ以降も委員長を歴任した（2011年度まで）。

大学開学後1年までで情報教育システムの刷新・構築（立案、業者への打診、依頼、作業監督、各種サーバへのユーザ登録・設定etc）を終えたが、大学と短大部全体における情報関連作業の実行を行う組織はなく、ほとんどを筆者のみで作業したが、開学2年目以降はそれが一層顕著になった。

筆者は着任当時から、情報システムセンターなどの実行組織・部隊の構築を訴えたが、現在のところ、センターとしては実現していない。

情報システム委員会は存続したが、情報基盤（情報教育システムを含む）関連作業を実行する組織や実行に十分な部隊が不在である時期が続いた。

- (イ) なお、「2008年度末に本学情報ネットワークシステム取扱要領が策定された」との連絡があり、2009年4月から「学長が本学情報ネットワークシステム管理者となり、同時にネットワーク管理担当者が事務と教員からそれぞれ一名ずつ学長によって指名される」ことになり、筆者も毎年指名されていた。ただし、このような体制になっても実行部隊が不十分であり、ほとんど筆者のみが作業する実態は変わらず、過重負担が続いた。

実際、事務で2009年4月に指名された方に、事務員の新任者に対するPC設定などを2008年度までと同様に分担していただき、管理について打ち合わせることもあったが、複数のサーバへの新入生のユーザ登録、教職員の新任者の登録、教員の新任者への対応、教室のデスクトップPC等を対象にする「ネットワーク対応のセキュリティソフト」に関する毎年の契約更新など、筆者のネットワーク関連作業は多岐に渡った。また2010年度は事務からのネットワーク管理担当者としてその方ではなく、作業は行なわない事務部長が指名された。

<2010年10月頃から：SEが半常駐>

- (ア) 2011年の年明けに委託業者と本学は契約をしたはずであるが、委託業者は「筆者が実施していたネットワーク管理を、責任を持って実施するために、ネットワークの調査を数ヶ月したい」とのことで、高額な月額となったと聞いている。筆者はまだ情報システム委員長であったが、契約内容の詳細は明らかにされなかった。しかし、委託業者へ依頼する業務内容については、情報システム委員会と事務と業者とで話し合うことになっていたはずであり、「やってみて、まずいところがあれば修正していこう」との説明も事務部長（当時）からあった。

「2010年度末には、この業務に関する競争見積もりを行う」との話が当初あったが、結局されずに同一業者との契約が更新された。契約内容の詳細は当時示されていない。さらに、2011年度末（2012年）には単年度契約の更新が行われたはずだが、すでに次年度からの新委員長が決まっており、契約内容の詳細は筆者にも情報システム委員会にも明らかにされなかった。ただし、筆者が行ってきた情報基盤管理運用業務を委託するものと筆者は考えていたし、契約内容をつめていく現場（筆者は呼ばれていない）にいた方々もそのように考えていたと思われる。その後、高額な月額のままであると知り、すでに調査は終わったはずであるのに疑問を感じた。その額は現在に至っているようである（2017年度の段階では変更ないと聞いている）。

2011年度末から、委託業者の業務報告を事務員の数名で聴く会が月一回開かれており、2012年度からの新委員長は、その会に出席した。筆者も出席をしたほうがよいかその教員に尋ねたが、自分ひとりでよいとのことだった。2014年度から別の教員が新委員長となり、そのときか

静岡英和学院大学と短期大学部におけるMoodleシステムの教育的利用について（その1．導入の覚書き）

らは筆者（学内で唯一の情報系専任教員）も出席した。2016年度から筆者は情報システム委員長に復帰し、報告会にも引き続き出ている。

（イ） 委託業者による作業の状況

詳細はここでは省くが、情報教育上、情報教育システムに対して必要な作業に対し、それは契約外との認識を委託業者が示すことが2016年度からよくある。

### 3. Moodle導入の経緯

（ア） 目白大学から静岡英和学院大学へ移籍された市原乃奈先生は、2016年から2017年3月にかけて、本学の学長裁量費を利用し、「Moodleを利用した日本語e-ラーニングの構築」を行った[2]。市原先生は、目白大学時代にMoodleを利用されていたとのことである。

2016年度において、静岡英和学院大学の教育用サーバWWW2にまだMoodleをインストールしていなかったが、市原先生は委託業者にMoodleを使いたいことを相談され、その結果かどうかは不明だが、Moodleには株式会社VERSION2（所在地：北海道札幌市 代表取締役：大西昭夫）の「ちえ蔵」[3]（インターネット経由で利用できるクラウドベースのMoodleサービス）を利用しようとしていた。目白大学で作成したコンテンツを、そちらに移すことを目指しておられたが、その際にも委託業者に相談されたようで、委託業者は、学内のMoodle検証サイトを「個人的に所有しているとのPC」に立ち上げ、そこで検証してからちえ蔵に入れるように市原先生にお伝えしていた。

筆者にも2016年度のその段階で市原先生から一度問い合わせがあり、その後、同年7月末にちえ蔵との契約が成立して使えるようになったとのこと、詳細な設定と一緒に確認してほしいとの依頼が委託業者と筆者へあった。

市原先生は、委託業者へその後も相談され、また、その相談料を別途お支払いしたとてを2016年度末に聴いた（委託業者も、いただいたと言っていた）。

目白大学では、Moodleに関する質問対応など、サポートが充実しており、授業の準備などのためのMoodleの利用に集中できる環境のようである。何人もの人員が、センターのようなところに配置されている体制のようである。

（イ） 筆者から委託業者へ、2016年度中の作業報告会のときに、教育用サーバ（「授業で作成したWebページのアップ（公開）」や「CプログラミングやUNIXの実習」等の用途で必修科目や選択科目で用いている）へMoodleをインストールすることを依頼した。最初の提案と依頼は2016年5月頃以前と思う。業務委託業者から「市原先生が利用中のMoodleシステムが年度末で契約満了のため来年度の運用方法について相談したい」旨が作業報告会に持ち込まれた同年12月に再依頼した。いずれの依頼も、すぐに使えるようになるまでの設定を意図していた。

(ウ) 2017年2月にMoodleシステムを立ちあげたとの連絡は委託業者から同年3月16日まで筆者になく、この日になって、連絡と同時に、システムの運用方法について学内調整を筆者に依頼してきた。そこで同日情報システム委員長としての下案を作業報告会メンバー全員（委託業者を含む）に提示したが、同3月22日まで委託業者からも返事がなく、しかもその返事にはトップ画面の編集作業を当面減らす要望があった。

詳細はここでは省くが、結局その後2017年3月末の段階で委託業者は、Moodleトップ画面に注意事項を記入するなどについては有料でしかも1カ月くらい時間がかかるとのことであった。しかし、同年4月から授業で市原先生が使われるので、筆者が急ごしらえで作成することにした。ただし、その後の運用について、委託業者の了解をとり、内容に含めた。

(エ) 公開し、大学の教授会でアナウンスした。

SHIZUOKA-EIWA Moodle

あなたはログインしていません。(ログイン)

最初にお読み下さい (テスト運用の後期終了予定について・コンテンツ作成時の著作権に関する注意・マニュアル等 2017年3月29日掲示開始、同4月20日修正 (既定の表示を削除))

**学内の皆様へ本Moodleサイトのテスト運用について (情報システム委員長 中原陽三) 2017年4月20日(同12日からテスト運用を開始しています)**

次のA～Cにご留意下さるようお願いいたします。

**A. 本Moodleサイト (テスト運用) の管理、運用終了時期、ならびに、利用可能性の未保証について**

管理者は、ネットワーク会議メンバー (財務、学務、情報システム委員長の全部で若干名) の一部です。ただし、実際の個々の作業は前期は外部SE (A氏) が行います。なお、A氏は後期は続けれないとのことなので、「後期から事務局が個々の作業を引き継ぐ」などの代替案が出ない場合は、テスト運用を終了することがあります。また、テスト運用では、完全な利用可能性を保証するものではありません。あらかじめご了承下さい。

**B. Moodleコンテンツ作成時の注意点**

- 著作権に十分気をつけてコンテンツを作成して下さい (次の参考サイトをよく確認してください。少なくとも「2」の問題は解いてみて下さい)。  
<参考サイト>
  - eラーニングと著作権 | 日本著作権教育研究会 (新しい頁で開きます。3つのページへのリンクがあります)
  - 学校内の著作権利用(上記サイトのトップページからリンクがあるページです。この問題を解いて理解を深めて下さい)
  - 著作権Q&A | 日本著作権教育研究会
  - 著作権で気をつけるべき点を知りたい | 大学教員のためのICT活用ヒント集 (放送大学。ビデオが2つあります)
- Moodle3.2.1のマニュアルとして、本学独自のものは作成中ですが、さまざまな要因から完成時期は不明です。他大学のサイトなどによく載っているマニュアルは、別バージョンの場合もありますが、感じを掴むにはよいかと思われますので、適宜検索してみてください。なお、次の3つのサイトは有用と思われるので参考にして下さい;
  - MoodleDocs
  - コース: Japanese Moodle
  - Japanese Moodle (@jamoodle)さん | Twitter
- PC準備室の外部SE (A氏) は、「偶然とした質問は受け付けられない」とのことなので、疑問を明確にして質問してみてください。また、簡単な質問なら答えられるとのこと。
- 使い始めるためには、ユーザ登録が必要です。当面、コンテンツ作成は教員に限らせていただきます。学生は教員を手伝うことはできませんが、もっぱらコンテンツを利用します。教員は財務課に申し込んで下さい。また、学生の登録はコース毎になりますが、自分、コースを作成した教員が学籍番号を取りまとめて財務課が学務課へ申し込んで下さい (学籍番号のリストと、履修させたいコースを併せて申請します)。なお、登録すべき情報について確認するために、申請した教員へ連絡する場合がありますので、ご了承下さい。

**C. その他**

学生が同時アクセスできる人数について、外部SEに回答を求めていますので、分り次第、ここに提示します。なお、場所によって人数は異なると思われる。

以上

図1. SHIZUOKA-EIWA Moodleのトップ部分

注1:

静岡英和学院大学短期大学部食物学科の教員から「現在短期大学部で採択されている文部科学省就業力育成支援事業のホームページを公開したいので、借りているサーバをサーバ室に置かせてほしい。これは、2010年から2014年までの5年間のプロジェクトで、2011年2月までにホームページを作成して文部科学省のGPポータルに登録することを義務付けられている」との要請を受けて、

静岡英和学院大学と短期大学部におけるMoodleシステムの教育的利用について（その1．導入の覚書き）

2010年度末（2011年）にサーバ室に当該サーバ（3（イ）で言及した教育用サーバではない）を置いた。これにMoodleを入れての使用も行ってたと聞いている。大学と短大部とにおいて、Moodleの利用はこれが最初であろう。短大部全体でMoodleが使われていたのか不明である。

注2：

ちえ蔵は、たいへん安く[4]、その点でも導入しやすいものであったが、2018年12月28日（金）にサービスを終了する[5]。

## 4. おわりに

静岡英和学院大学のMoodleシステム（SHIZUOKA-EIWA Moodle[1]）は、2017年4月12日にテスト運用を開始した。

ここではそこに至る経緯について、状況を簡単に覚書的に振り返った。

今後、それを踏まえてその後の運用についても振り返り、今後の本学における運用の展開について検討する。

その中で、情報基盤の管理運用体制について検討するとともに、ちえ蔵に代わるものとなりえるかについて、いくつかを検討したい[6]。また、サポート体制をどうつくるかが先と思われ、すぐの導入は難しいかもしれないが、学認クラウドでもMoodleの導入をやすくしており、視野に入りたい。

### 参考文献

- [1] 「SHIZUOKA-EIWA Moodle」. [Online]. Available at: <http://www2.shizuoka-eiwa.ac.jp/moodle/>. [参照: 09-12月-2018].
- [2] 市原乃奈, 「留学生と日本語系教師希望学生の双方で作成する日本語教育教材開発の取り組みについて」, *平成30年度ICT利用による教育改善研究発表会資料集*, 2018.
- [3] 「ちえ蔵 | 手軽に始められるオープンソースLMS」, ちえ蔵. [Online]. Available at: <https://chiekura.jp/>. [参照: 10-12月-2018].
- [4] 「ちえ蔵 | プランと価格」, ちえ蔵, 22-7月-2014. .
- [5] 「ちえ蔵 | 『ちえ蔵』 サービス終了のお知らせ」, ちえ蔵, 31-8月-2018. .
- [6] 「FlipClass2Go.com」. [Online]. Available at: <https://www.flipclass2go.com/>. [参照: 08-12月-2018].

